



寺101  
清10663  
宝小川58-1

宮内庁  
管理 電話 〇四二五一五八一二六六三  
FAX 〇四二五一五八一二六九三  
寺務所 住職 石井 前塚  
所長 伊藤 勝之

お施餓鬼法要

七月十四日(日)  
十一時より於当山本堂

☆「お盆」と「お施餓鬼」

○教典 「仏説孟蘭盆經」  
釈尊の弟子目連尊者が餓鬼道に落ちて苦しんでいる母を救った話。  
○意味 過去七世の先祖や父母達が苦しむことなく成仏するようにと、子孫である私達が折る報恩供養の行事。  
○対象 ご先祖様、有縁無縁の諸精霊。

今回は仏教ゆかりの食物の六回目として、鑑真和尚が伝えた健康食「納豆」について紹介致します。納豆といえは、現在ではネバネバのある糸引き納豆のことですが、鎌倉時代以前は、「塩辛納豆」(唐納豆)を意味していました。納豆の歴史は古く、中国では紀元前から作られていました。日本に納豆をもたらしたのは、鑑真和尚です。天平勝六年(七五四年)ようやく日本入りを果たした和上の積み荷の中に「唐納豆」がありました。この唐納豆は精進料理の調味料として、寺院で多く造られ、寺納豆とも呼ばれていました。現在の納豆のように麴で発酵させたのですが糸を引かない。これを、当時は「休納豆」とか「大徳寺納豆」と呼んでいました。浜松の「浜納豆」この系統です。現在の糸引き納豆は、戦国時代に、保存食として、煮豆をワラに包んだのが自然発酵したものが始まりとされています。次回はその紹介致します。

☆お施餓鬼

○經典 「仏説焰口餓鬼陀羅尼經」  
○由来 釈尊の弟子阿難尊者が餓鬼道で苦しむ鬼を供養することで、自分自身が救われた話。  
○意味 供養にめぐまれない、様々な霊を供養することにより、私達が、生きていく、生かされていくことに感謝する行事。  
○対象 すべての仏、過去のすべての生物(動物・植物・生きとし生けるもの)。  
※墓参をし、ご先祖の霊を慰め感謝致しますよう。尚、施餓鬼法要終了後、お斎(粗飯)の用意が御座いますので、ご供養のため召し上がってからの墓参される事をお勧め致します。

☆☆石の武蔵家との契約期間満了☆☆

平成四年からお世話になつていた、「石の武蔵家」との契約期間が六月末日で満了致しました。現在、墓の工事契約をされている方と申込をされ更地のまま未工事の方は、今後も「石の武蔵家」が対応致しますが、墓石の追加工事や相談のある方は、今後は宝清寺管理事務所にお申し出下さい。

☆信託使△云館付帯設備 任意寄付について☆

六月中旬に、境内地造成工事・信徒会館建設に伴う、鐘楼及び信徒会館付帯設備に関する、任意の寄付をお願いを致しましたところ、早速、お振込を頂いた方や持参された方があり、当山の事業計画実現に向けて頑張ろうと決意を新たに致しました。持参された方には領収書を発行致しますが、振込の方は記録が残りますので、領収書は発行致しません。もし、領収書が必要の方は宝清寺管理事務所にご請求下さるようお願い致します。

管理料納入は 指定の振込用紙を!

平成八年度から春のお彼岸の案内号「たちばな」に私製の管理料専用の振込用紙を同封致しました。墓参の折持参されても結構ですが、今後も同時期に同封致しますので、寺務処理上なるべくご利用をお願い致します。

回廊上人の御文章 (四條金吾殿御書より)

日蓮上人は数多くのご遺文を残されています。今回は「孟蘭盆」に関する箇所を紹介致します。「抑々孟蘭盆と申すは、源目蓮尊者の母青提女と申す人憍貪(けんどん)の業によりて、五百餓鬼道に墮ち給ひて候を目蓮救ひしより事起りて候。然りとていへども佛にはなはず其の故は、我が身未だ法華經の行者ならざる故に母をも佛になすことなし。靈山八箇年の座席にして法華經を持ち、南無妙法蓮華經と唱へて多摩羅跋耆檀香佛(たまらばつせんだんこうぶつ)となり給ひ、この時母も佛になり給ふ。又、施餓鬼の事仰せ候。法華經の第三に云く「如從飢國來忽遇大王膳」云云。此の文は中根の四大聲聞、醍醐の珍膳を

音にも聞ざりしが、今經に來りて始めて醍醐の味をあくまで嘗(な)めて、昔飢たる心を忽ちに息(や)めし事を説き給ふ文也。若し爾らば餓鬼供養の時此の法蓮華經と唱へて弔ひ給ふべく候。(四條金吾殿御書)

★墓参用お花線香★ (十三日、十六日) お花線香 一束 七〇〇円 お線香 一〇〇円

七月十三日、十六日はお盆です。お盆の迎え方は地方・宗派によつて様々な習慣があります。お盆は七月に行われますが、八月に行われる所もあります。お盆の前に墓掃除を行い、十三日の昼頃までに精霊棚を飾ります。精霊棚は家に帰つて来た精霊が安置される所で、四隅に青竹を立て台の上に真菰を敷いて先祖の位牌を中心に供物・灯火・盆花・香・水等を供えます。十三日の夕方には墓所や門口で迎え火を炊き、先祖を家まで案内します。お盆の期間か前に棚経と言つて、菩提寺から各家々に伺い誂經をします。お棚経は昨年まで伺つていたお宅には本年も伺うようご案内をさせて頂きました。ご都合が悪い場合はご連絡をお願い致します。又、新規にご希望の場合は管理事務所にお申込下さい。